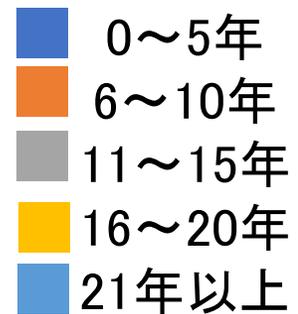
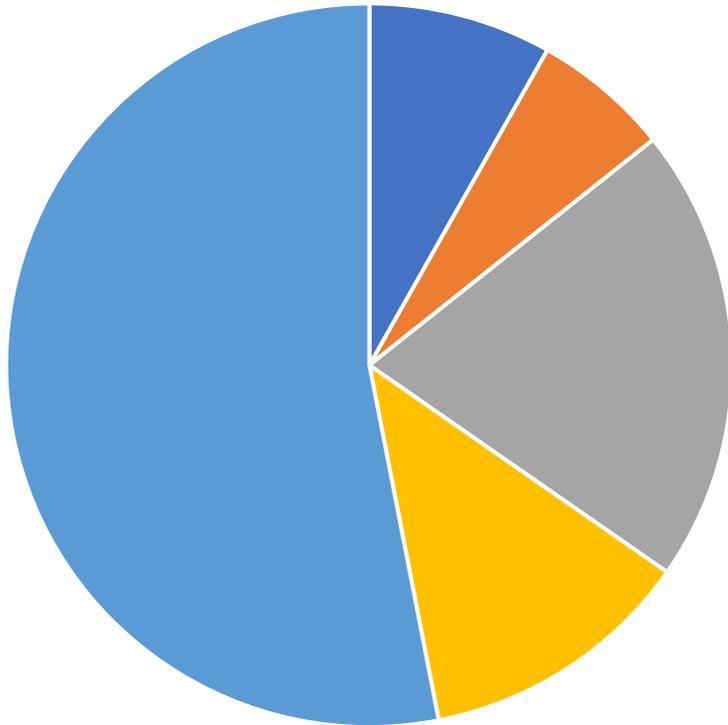


消化器医を増やすには

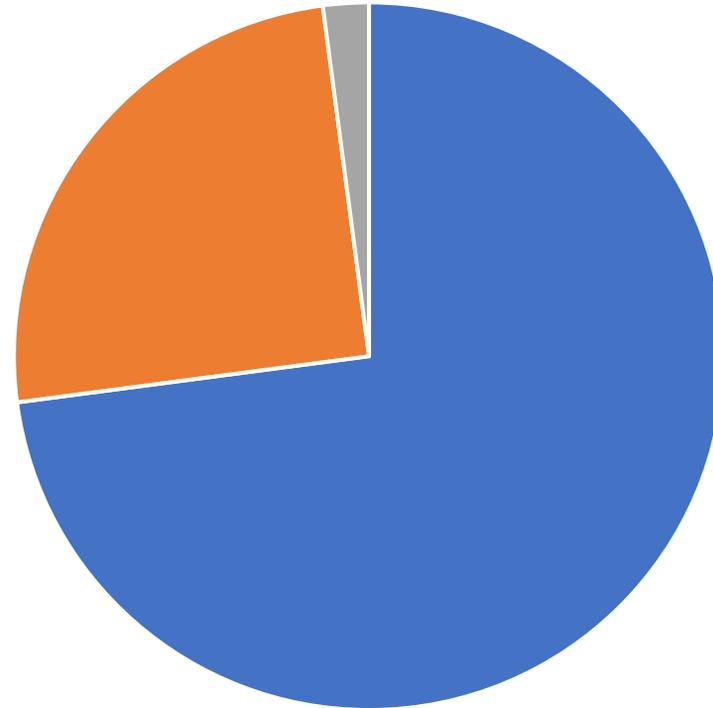
2024年6月16日 消化器病学会北陸支部例会
第26回専門医セミナーで行ったアンケート
49名からの回答より

アンケート 49名から回答

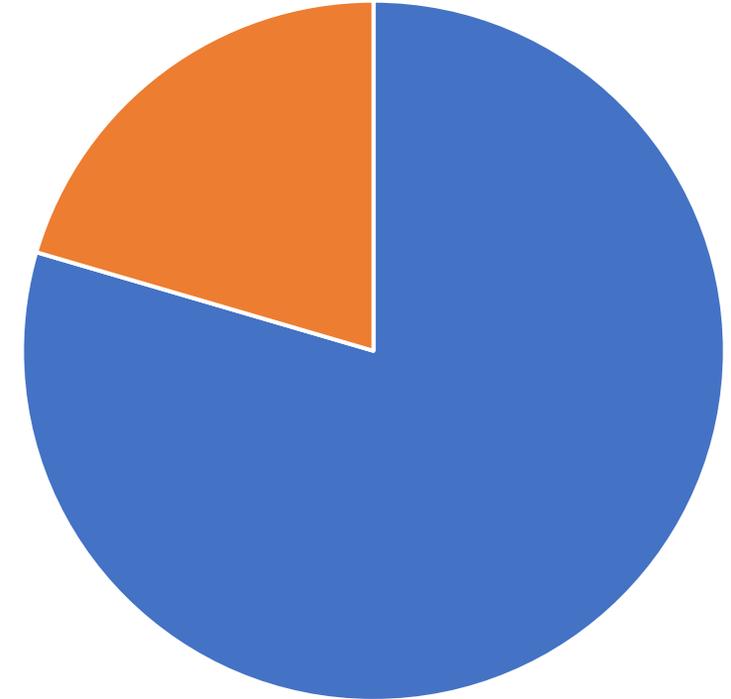
卒後年数



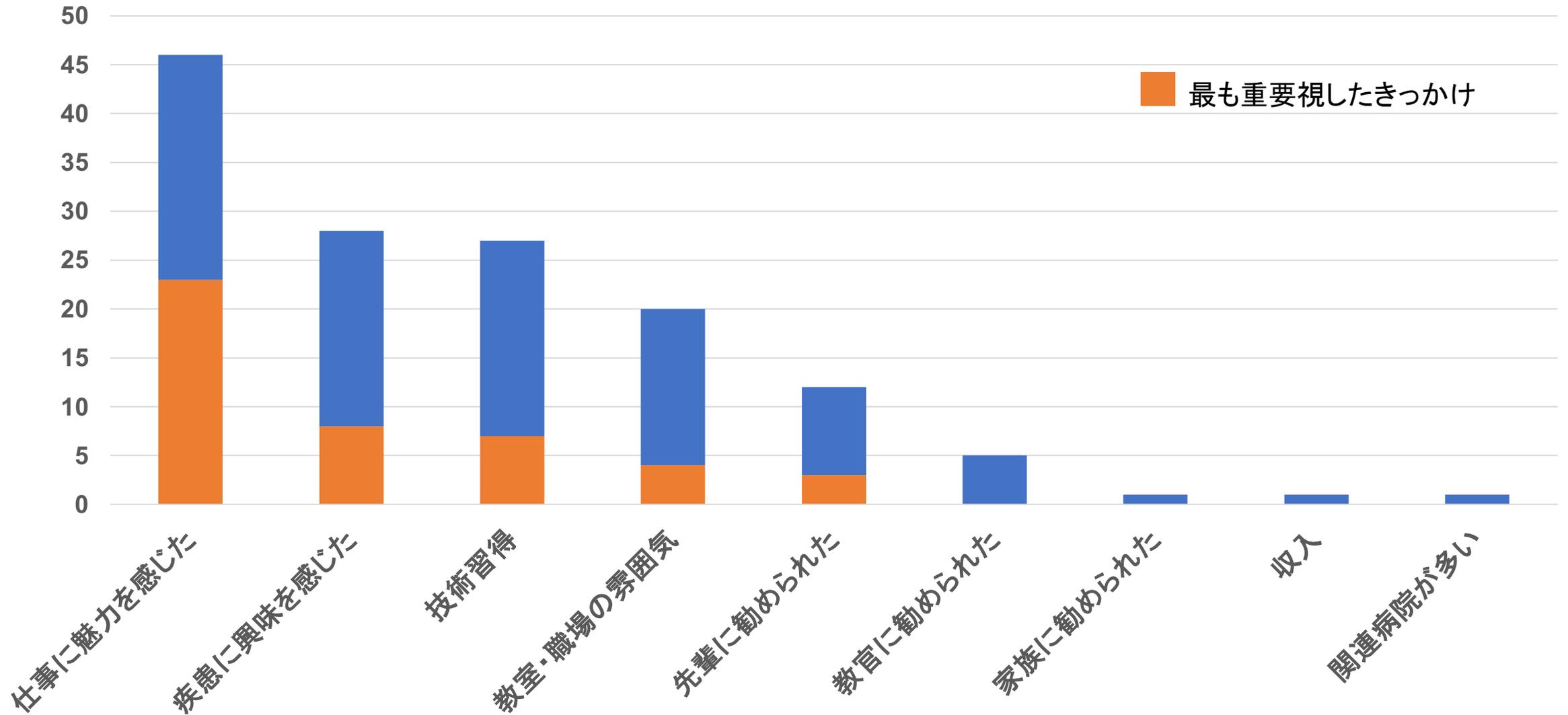
所属



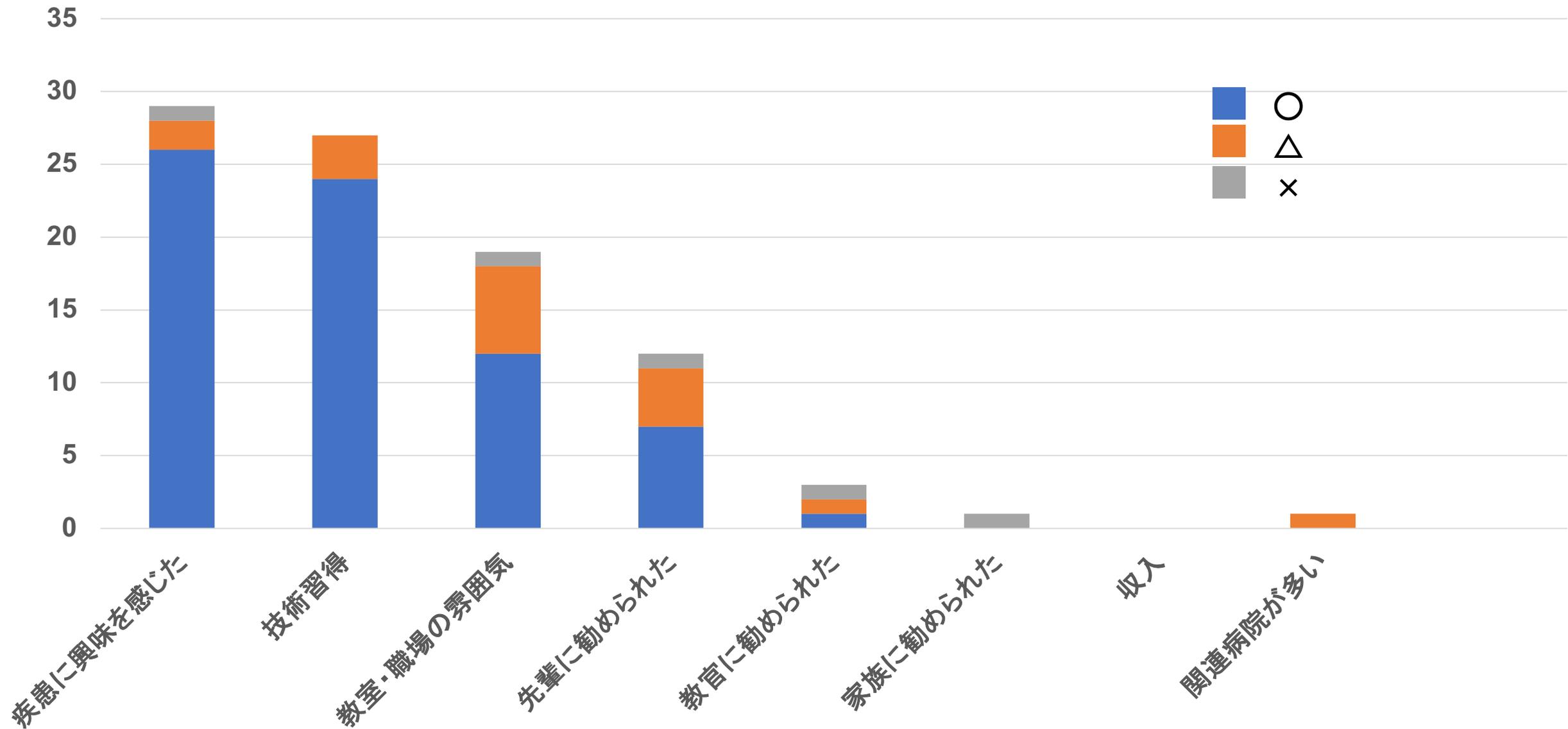
性別



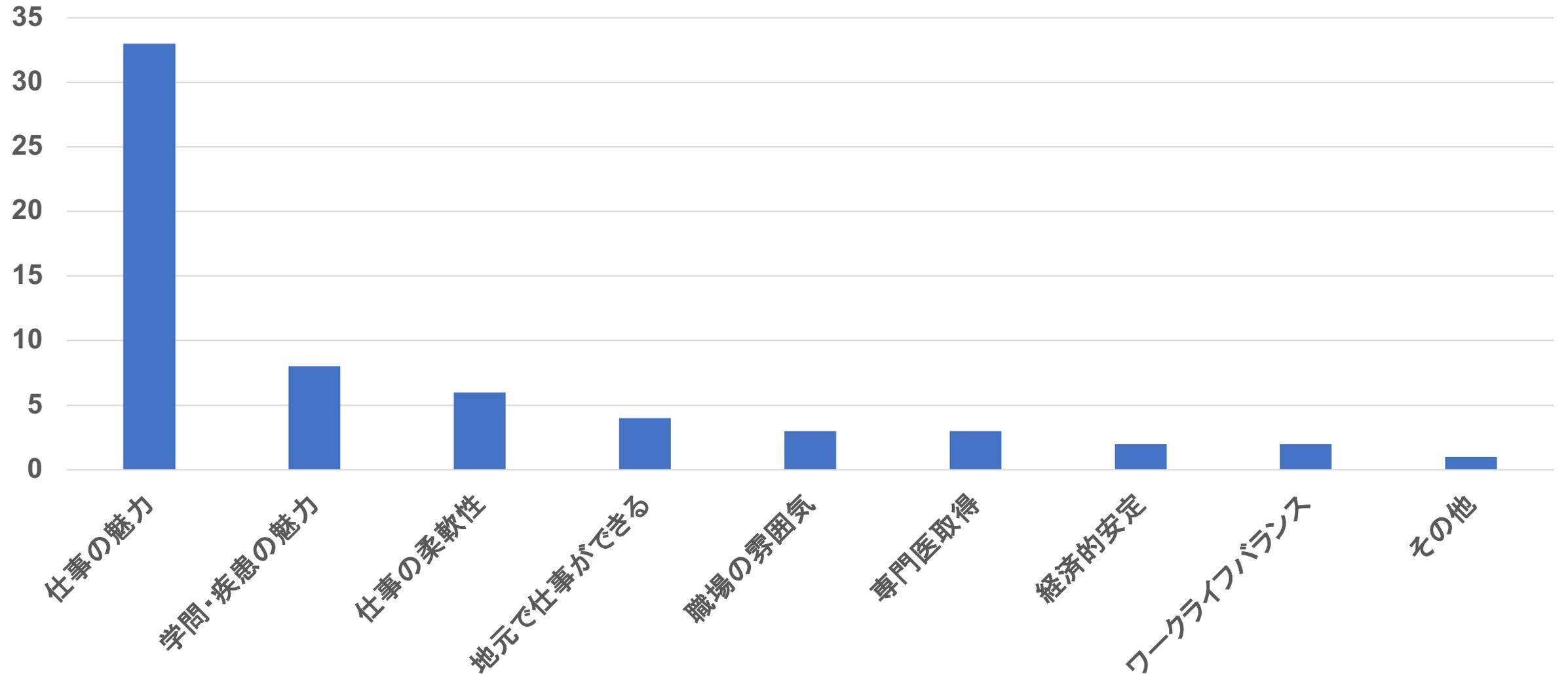
消化器医を選んだきっかけ（複数回答）



消化器医を選んだきっかけは重要でしたか？

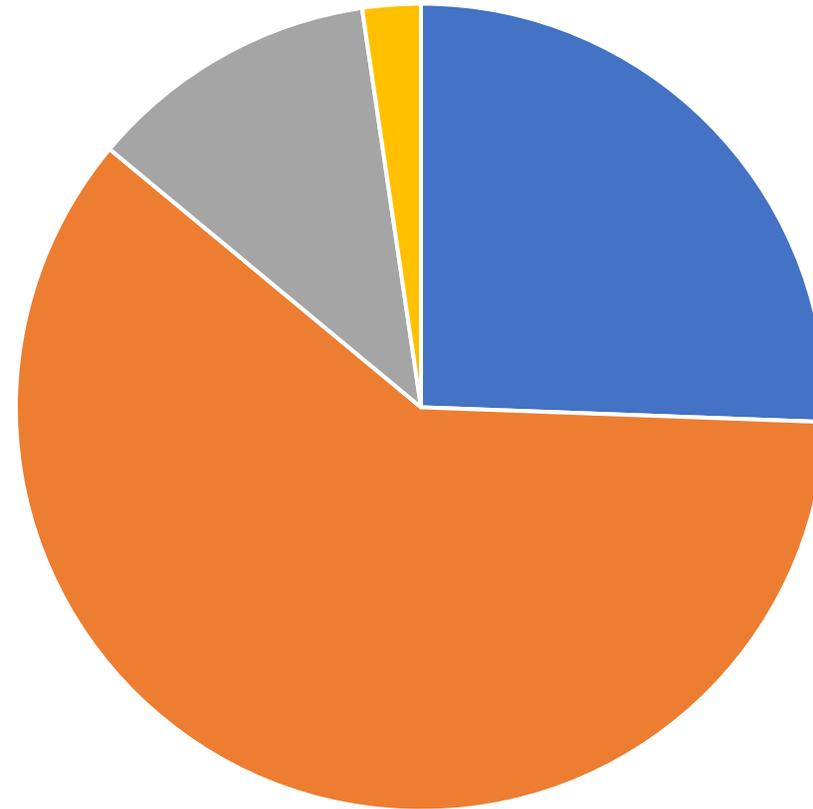


消化器医を勧めるとしたら何を一番強調しますか？



その他: 消化器医の需要

消化器医になって満足していますか？



■ 大変満足

■ 満足

■ どちらともいえない

■ 後悔している

消化器医を増やすためには？（自由記載）

0～5年	その他	女性	若手の育成に力を入れていることをアピールする
0～5年	内科系	男性	内視鏡検査だけに限らず、治療の豊富さは魅力的だと思います。 私は膵癌の早期発見におけるEUSの有用性について魅力を感じ消化器医を目指しましたが、ESD、ERCP、肝生検など幅広く検査・治療を行えることを実感し消化器医を目指して良かったと感じております。産休・育休を考えている先生方は検査・治療の件数を減らしながら、勤務を続けることができるのもアピールポイントと考えます。
5～10年	内科系	男性	ワークライフバランス・収入
6～10年	内科系	女性	働き方改革の向上
6～10年	内科系	男性	働き方改革
11～15年	内科系	女性	本来ニーズがとてもあり、手技も多岐に渡るとてもやりがいのある科ではあるが、忙しさを敬遠されているのが現状だと思います。 これから入局先を決める先生達は、単に忙しいのが嫌なのではなく、業務に忙殺されて本来の自分の勉強や研究にあてる時間がなくなることを懸念されているように感じます。 従って、時間外診療のオンコール制やグループ主治医制などを取り入れていくべきことが重要だと思います。
11～15年	内科系	男性	ハラスメントをなくし、若い先生がのびのびできるようにする
11～15年	内科系	男性	なぜ社会に消化器医が求められるのかの発信 柔軟な働き方ができることのアピール（特に内視鏡は手に職） 一人主治医制でなく常にフォローがなされる体制作り
11～15年	内科系	男性	ワークライフバランス

消化器医を増やすためには？（自由記載）

16～20年	内科系	女性	ワークライフバランス
16～20年	内科系	男性	初期研修医のレベルでも仕事内容の魅力はそれなりに伝わる どちらかというとなegativeな部分（ワークライフバランスの欠如、教室の雰囲気など）の改善が重要に思える
16～20年	内科系	男性	1) 研修医早期からの実技指導 2) 柔軟な働き方の組み合わせによる完全なチーム診療の確立
21年以上	外科系	男性	楽しさを伝える
21年以上	内科系	男性	学生時代から疾患や検査に興味をもってもらう（実技）
21年以上	内科系	女性	学生時代から仕事の魅力を伝える
21年以上	内科系	男性	仕事のおもしろさに接するチャンスを増やしてあげる教育環境
21年以上	内科系	男性	働き方改革やタスクシフト 急変、重症の多い科ですが休む時はしっかり休めるようにするシステムを作ること
21年以上	内科系	男性	消化器疾患に対する診療の難しさ、やり甲斐を感じることに
21年以上	内科系	男性	緊急や夜間の患者対応についてのオンコール制、チーム制など
21年以上	外科系	男性	基幹診療科としての待遇
21年以上	内科系	男性	拘束時間の削減（チーム医療の推進） キャリアプランの多様性アピール（他領域では専門性を発揮できる場が少ないこと）